

V. 參考資料

令和2年度学生生活調査実施要領
 (「令和2年度学生生活調査」実施の手引(学校事務担当者用)より)

I 調査の概要

1. 調査の目的 この調査は、全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活の実状を明らかにし、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的としています。

2. 調査の対象 大学学部、短期大学本科及び大学院の学生
 (社会人学生を含む。通信課程、休学者及び外国人留学生は除く。)

! この調査は、奨学金事業に関する調査ではございません。
 奨学金受給の有無にかかわらず、全ての学生を対象としています。

3. 調査の時期 令和2年11月

4. 提出期限 令和2年12月18日(金)
 ※提出方法については3頁「3. 調査後の整理と報告」を参照してください。

5. 調査数 下記の抽出率によって在籍学生(令和2年5月1日現在の「学校基本調査」調査票情報利用)から抽出した数とします。
 (貴校の調査数は、別紙「調査依頼数及び送付内訳」を参照してください。)

【令和2年度 抽出率】

区分		設置者別		
		国 立	公 立	私 立
大学学部	昼間部	$\frac{1}{38}$	$\frac{2}{31}$	$\frac{1}{92}$
	夜間部	$\frac{6}{13}$	(全数調査)	$\frac{9}{43}$
短期大学	昼間部	/	$\frac{38}{77}$	$\frac{4}{91}$
	夜間部	/	(全数調査)	$\frac{77}{87}$
大学院	修士課程	$\frac{3}{62}$	$\frac{7}{23}$	$\frac{1}{12}$
	博士課程	$\frac{4}{31}$	$\frac{25}{47}$	$\frac{11}{40}$
	専門職学位課程	$\frac{38}{99}$	(全数調査)	$\frac{32}{87}$

※ 大学学部(昼間部)については、層化多段抽出を行っているため、在籍学生数と調査数が完全には比例しません。また、在籍学生数の少ない一部の大学は、一定の確率で調査依頼から外れています。

※ 公立の大学学部(夜間部)・短期大学(夜間部)・大学院専門職学位課程については、母集団である全国の学生数が減少しているため、全数調査となっています。

6. 調査方法 あらかじめ、この調査の対象となる全在籍学生の中から、本機構が依頼した調査数の学生を「無作為抽出方法（4頁「Ⅲ 被調査学生の抽出方法」参照）」によって抽出後、所定の調査票を使用して調査します。
ただし、全数調査の区分は、対象者全員に調査します。
7. 調査ホームページ https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/2020.html
日本学生支援機構ホームページ》各種調査情報》学生生活調査》令和2年度学生生活調査

Ⅱ 大学における事務

1. 調査開始前の準備

(1) 学生への周知

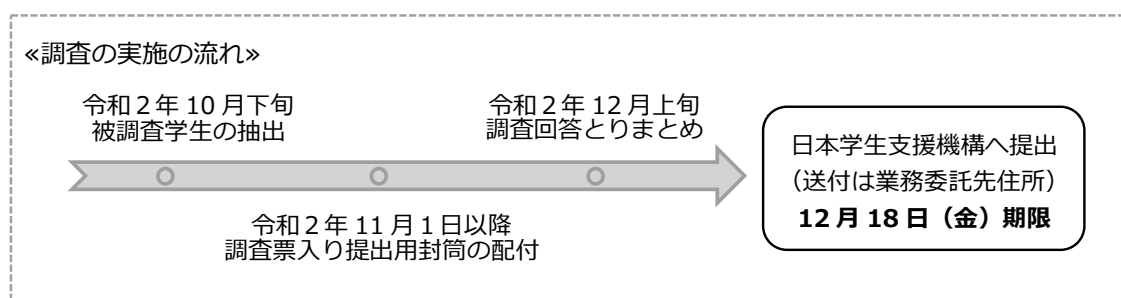
調査票回収まで一連の作業が円滑に行われるよう、被調査学生を抽出する前に、この調査の趣旨及び実施について、学生に可能な限り周知を図ってください。

(2) 被調査学生の決定

本機構から依頼した調査数を、4頁「Ⅲ 被調査学生の抽出方法（全数調査の区分は除く）」によって抽出してください。

なお、全数調査の区分についても、対象者は令和2年5月1日現在の大学学部、短期大学本科及び大学院の在籍者（5月1日現在休学者及び外国人留学生を除く）となります。

2. 調査の実施



- (1) 11月1日以降、被調査学生へ、調査票及び調査票記入要領の入った提出用封筒(※)を配付してください。

※ 大学・短期大学・大学院の別により、調査票が異なりますのでご注意ください。

封筒表側下部のラインで色分けしています。

[水色→【大学 学生用】、オレンジ色→【短期大学 学生用】、緑色→【大学院 学生用】]

(2)以下のとおり、学生への指導のご協力をお願いいたします。

《学生への指導のお願い》

- この調査において、提出された調査票から個人が特定されることはなく、プライバシーは確実に保護される旨、被調査学生に対しお伝えください。
- 調査票の設問（15）「授業料」「その他の学校納付金」等、各大学で金額が決まっているものは、一覧表等でその額を学生に示し、誤記入がないようご指導ください。
- 調査票の設問（14）「年間収入合計（ア）」と（15）「年間支出合計（イ）」について、金額が同じになるようご指導ください。
- 調査票の設問（21）「家庭の年間所得総額」について、よく家庭と連絡をとって記入するようご指導ください。

(3) 調査についてのご質問は、「よくある質問Q&A」を調査ホームページ（2頁参照）に掲載していますので、ご利用ください。その他、不明な点等ございましたら本機構（5頁参照）までお問い合わせください。

3. 調査後の整理と報告

(1) 被調査学生から回答済み調査票の入った提出用封筒(以下「提出封筒」という。)を回収し、とりまとめ願います。お手数ですが、提出封筒を回収できていない被調査学生には督促をお願いいたします。なお、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、回収が困難と判断される場合は、当該学生への督促は控えていただいて結構です。

開封しての内容確認は不要です。回収した提出封筒の枚数のみご確認ください。

※ ただし、提出封筒の重さや形状から見て、明らかに異なる内容物が同封されている場合は、学生へご指導ください。

(2) 「調査票回収枚数一覧表」(別紙)に、回収した提出封筒の枚数等を記入してください。

(3) ①調査票回収枚数一覧表、②回収した提出封筒を、12月18日(金)までに本機構（本調査回答受付業務委託先）へ発送してください。

発送の際は、着払い用宅配便伝票(※)(住所等印字済み)をご利用ください。

※ 伝票は、別途郵送した本調査の依頼文書に同封されています。

発送物の表面に「学生生活調査 調査票在中」と朱書してください。

着払い用宅配便伝票が不足する場合は、着払いで以下に送付してください。

〒

《 掲載略 》

※ 被調査学生が休退学になった等により使用しないことが判明している調査票入り提出用封筒がありましたら、併せて本機構（本調査回答受付業務委託先）への発送時にご返却ください。

(4) 本機構への発送後に学生から遅れて提出があった場合、①調査票回収枚数一覧表（追加提出用）（本手引6頁をコピー）、②回収した提出封筒を、本機構（本調査回答受付業務委託先）へ発送してください。

4. 前回調査からの変更点

- (1) 提出封筒を回収できていない被調査学生にはこれまで通り督促をお願いいたしますが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、回収が困難と判断される場合は、当該学生への督促は控えていただいで結構です。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響で、期限までの提出が困難な場合は、本機構までご連絡願います。
- (3) 調査項目は概ね前回調査と同じですが、一部の設問を、削除・追加・変更しています。

Ⅲ 被調査学生の抽出方法 (全数調査の区分は除く)

1. 抽出方法

- (1) 抽選用名簿を作成してください。

令和2年5月1日現在の大学学部、短期大学本科及び大学院の在籍者（5月1日現在休学者及び外国人留学生を除く）が対象となります。なお、令和2年5月1日現在の在籍者であるため、令和2年秋入学者は対象となりません。

大学及び短期大学については、昼間部、夜間部別、大学院については、修士課程、博士課程、専門職学位課程別に在籍者を分類してください。

- (2) 上記(1)で作成した抽選用名簿について、本機構が依頼した調査数(※)を下記(3)の方法により抽出してください。

なお、上記の分類に加え、学部等についても在籍学生数に応じて比例配分し、偏りが生じないようにしてください（割り切れない場合には、四捨五入してください）。

※ 「調査依頼数及び送付内訳」(別紙)をご参照ください。

例) 調査依頼数が20の大学で在籍学生数が、文学部は70人、工学部は130人である場合。

$$\text{文学部の調査数} = \frac{70 \text{ 人 (文学部の在籍学生数)}}{200 \text{ 人 (文学部と工学部の合計在籍学生数)}} \times 20 \text{ 人 (調査依頼数)} = 7 \text{ 人}$$

→ 文学部7人、工学部13人 に配分してください。

- (3) 「被調査学生の抽出について」(Excel ファイル)

(ア) 抽出に当たって、調査ホームページ(2頁参照)に「被調査学生の抽出について」(Excel ファイル)を用意していますので、ダウンロードしてください。

- (イ) ダウンロードしたファイルに学生数と調査数を入力すると、抽出基点番号と抽出間隔が算出されます。

[例]在籍学生数が 800 名、調査数が 160 名の場合

学生数	調査数	抽出基点番号	抽出間隔
800	160	4	5

※ 「抽出基点番号」「抽出間隔」の計算には乱数を用いていますので、入力するたびに数値が変わりますが、どの結果を使用しても問題ありません。

- (ウ) あらかじめ作成した抽選用名簿に照らし合わせて、抽出基点番号の学生から抽出間隔ごとに学生を選定し、調査数の学生を抽出してください。

学籍番号	通し番号	
ABC0001	1	
ABC0002	2	
ABC0003	3	
ABC0004	4	← 【調査対象】 (抽出基点番号4)
ABC0005	5	
ABC0006	6	
ABC0007	7	
ABC0008	8	
ABC0009	9	← 【調査対象】 (抽出基点番号4+抽出間隔5)
ABC0010	10	
ABC0011	11	
ABC0012	12	
ABC0013	13	
ABC0014	14	← 【調査対象】 (抽出基点番号4+抽出間隔5+抽出間隔5)

2. 抽出上の注意

- (1) 抽出は必ず 1. (3)の方法で行ない、本機構の奨学金受給者のみを対象とするなど、作為的に抽出しないでください。
- (2) 抽出により決定した被調査学生は、変更しないでください。選定された学生が調査を拒否した場合や、本年 5 月 1 日現在では在籍していたもののその後に休退学した学生が対象となった場合も、新たな調査対象学生の選定は不要です。
- (3) 上記の抽出方法で正しく実施した結果、学内のみでは偏りがあると思われる対象が選ばれても (例: 居住形態が特定の者に偏った場合)、全国的集計によって確率的に調整されますので、抽出結果の修正は不要です。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

令和2年度学生生活調査 調査票(大学)

(大学生等の学習状況に関する調査を含む)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(33)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません。なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
最後まで全ての回答をお願いしますが、特に回答に躊躇するご事情がありましたらこの限りではありません。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 昼間部・夜間部の在籍状況	1. 昼間部	2. 夜間部											
(2) 性別	1. 男性	2. 女性	3. その他										
(3) 現在の学年	1. 1学年	2. 2学年	3. 3学年	4. 4学年	5. 5学年	6. 6学年							
※留年や休学などは数えません。例:4年生を留年して現在5年目の場合は、「4学年」を選択してください。													
(4) 年齢	歳												
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系	2. 法・政・経・商・社系	3. 理・工系	4. 農系	5. 薬系	6. 医・歯系	7. 看護・保健系	8. 教育・教員養成系	9. 福祉系	10. 家政・生活系	11. 芸術系	12. スポーツ系	13. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。													
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅	2. 学生寮(寄宿舎)	3. 下宿・アパート・その他										
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。													
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県	2. 大阪府・京都府・兵庫県	3. その他の道、県										
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分	2. 11分～20分	3. 21分～30分	4. 31分～60分	5. 61分～90分	6. 91分～120分	7. 121分以上						
(9) 現在の住所	(都・道・府・県)		(10) 入学前の住所	(都・道・府・県、又は海外)									

Ⅱ. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学の授業 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学の授業の予習・復習、課題など	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 卒業論文・卒業研究	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 大学の授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 部活動・サークル活動	1	2	3	4	5	6	7	8
6. アルバイト・定職	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状況についてお聞きます。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)
 ※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。
 ※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(令和元年12月～令和2年11月)

(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項 目	千 万	百 万	十 万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 奨学金 の	日本学生支援機構 の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
	日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
(c) アルバイト						000 円
(d) 定職収入						000 円
(e) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)						000 円
年間収入合計(ア)						000 円

(15) 年間支出額(令和元年12月～令和2年11月)

(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項 目	千 万	百 万	十 万	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで修学可能ですか (最近1年間の経験から) (1つに○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない		
(17) 授業料減免制度を受けていますか (令和2年度前期分について) (1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった	5. 申請しなかった	6. 減免制度を知らない
(18) 日本学生支援機構の奨学金を受けていますか (最近1年間) (1つに○)	1. 奨学金を受けた		2. 申請したが不採用になった(どの奨学金も受けられなかった)			
	3. 希望したが申請しなかった		4. そもそも奨学金は必要なかった			

質問(18)で1. と回答した方にお聞きます

(18-1) 受けた奨学金の種類について
(あてはまるもの全てに○)

- 「貸与」第一種奨学金(無利子)
- 「貸与」第二種奨学金(有利子)
- 「給付」奨学金(返済が不要)

質問(18)で3. と回答した方にお聞きます

(18-2) 「申請しなかった」理由について(主な理由1つに○)

- 成績基準が合わなかった
- 収入基準が合わなかった
- 申請手続きが複雑なのでやめた
- 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた
- 日本学生支援機構以外の奨学金を受けることができたのでやめた
- その他

(19) 日本学生支援機構以外の奨学金を受けていますか (最近1年間) (1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた	4. 申請したが不採用になった (どの奨学金も受けられなかった)	5. 申請しなかった
-----------------------------------------------	--------------	--------------	-----------------	-------------------------------------	------------

(20)アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した

↓
質問(20)のいずれかで2.～4.と回答した方にお聞きします

(20-1)アルバイトの従事職種(主なもの1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2)アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。 ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学の方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立の家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																				
	<p>ア)主たる家計支持者</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>億</td> <td>千万</td> <td>百万</td> <td>十万</td> <td>万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">万円</p> <p style="text-align: center;">【万円未満四捨五入】</p>	億	千万	百万	十万	万						<p>イ)その他の方</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>億</td> <td>千万</td> <td>百万</td> <td>十万</td> <td>万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">万円</p> <p style="text-align: center;">【万円未満四捨五入】</p>	億	千万	百万	十万	万				
億	千万	百万	十万	万																	
億	千万	百万	十万	万																	
※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。																					
(22)主たる家計支持者について(1つに○)	1. 父	2. 母	3. あなた自身	4. 配偶者	5. その他																
(23)主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	1. 44歳以下	2. 45～49歳	3. 50～54歳	4. 55～59歳	5. 60歳以上																
(24)主たる家計支持者の職業について(1つに○)	1. 勤労者世帯	2. 個人営業世帯	3. 法人経営・自由業世帯	4. 農林・水産業世帯	5. その他の世帯																
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。																					

V. 大学での授業・学習について

(25) 今学期および前学期に、どの程度の科目数を履修登録しましたか。
また、それぞれについて、主にオンラインで実施の科目数(授業回の半分以上がオンライン実施のもの)を教えてください。

今学期の履修登録数 (内、オンラインで実施)	科目 (科目)	前学期の履修登録数 (内、オンラインで実施)	科目 (科目)
---------------------------	--------------	---------------------------	--------------

(26) 卒業に必要な単位数のうち、前学期までにどれぐらいを取得済みですか。
また、これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。
(オンラインで受講者数がわからない場合は、おおよその予想で結構です)

前学期までに取得 済みの単位の比率	講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (50人未満)	演習・ゼミ	実験・実習
	割	割	割	割	割
約 %					

足して10割になるように、おおよその割合をお答えください。

(27) これまで受けた授業では、A. 次のようなことがどれぐらいありましたか、またB. その頻度は適当だと思いますか。
(それぞれの項目のA. B. について、あてはまる番号1つに○)

項 目	A. どれぐらいあったか				B. 頻度は適当か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	減らして ほしい	現状で よい	増やして ほしい
1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれる	1	2	3	4	1	2	3
2. 理解がしやすいように教え方が工夫されている	1	2	3	4	1	2	3
3. TA(ティーチングアシスタント)などによる補助的な指導がある	1	2	3	4	1	2	3
4. 小テストやレポートなどの中間課題が出される	1	2	3	4	1	2	3
5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	1	2	3	4	1	2	3
6. グループワークなど、学生が参加する機会がある	1	2	3	4	1	2	3
7. 主に英語でおこなわれる授業(語学は除く)	1	2	3	4	1	2	3

(28) あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	まったくあて はまらない	あまりあては まらない	ある程度 あてはまる	よく あてはまる
1. 先生に質問したり、勉強の仕方を相談している	1	2	3	4
2. なるべく良い成績をとるようにしている	1	2	3	4
3. グループワークやディスカッションに積極的に参加している	1	2	3	4
4. 必要な予習や復習をして授業にのぞんでいる	1	2	3	4

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)
(大学での評価方法にあわせて、①か②のいずれかに記入してください。)

※素点にて成績評価がなされている場合には、調査票記入要領P.6(29)を参照のうえ、記入してください。

	秀(S,A+)	優(A)	良(B)	可(C)		優(A)	良(B)	可(C)
①5段階 評価	割	割	割	割		割	割	割
②4段階 評価								

おおよその割合をお答えください

おおよその割合をお答えください

(30) あなたの大学(学部・学科)では成績評価にGPA制度が導入されていますか。差し支えなければあなたのGPAを記入してください。

GPA制度が (1つに○)	1. 導入されている	あなたのGPA .
	2. 導入されていない	

(31) 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、それは有用でしたか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	経験した				経験して いない
	有用でない	どちらとも いえない	有用だった	非常に有用 だった	
1. 授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス	1	2	3	4	5
2. 大学での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目	1	2	3	4	5
3. 就職や将来のキャリアをテーマとした科目	1	2	3	4	5
4. インターンシップ(5日以上のもの)	1	2	3	4	5
5. 短期の海外留学(4ヶ月～1年程度)	1	2	3	4	5

(32) 次の点で大学の授業は、A.どのくらい役に立っていると思いますか。またB.自分の実力はどの程度あると思いますか(それぞれの項目のA.B.について、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	A. これまでの授業経験は				B. 自分の実力は			
	役に立って いない	←	→	役立っている	不十分	←	→	十分
1. 専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 文献・資料・データを収集する力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 論理的に文章を書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 人にわかりやすく話す力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 外国語の力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 幅広い知識、もののみかた	1	2	3	4	1	2	3	4

(33) 卒業後に最も希望する進路は次のどれですか(A.B.それぞれについて、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	1. 民間企業に就職	2. 公務員になる	3. 教師、医師、弁護士 などの専門職につく	4. 自営など1～3以外 の形で就業	5. 進学する (大学院など)	6. その他	7. 決めていない (いなかった)
A.入学時の希望	1	2	3	4	5	6	7
B.現在の希望	1	2	3	4	5	6	7



ご協力ありがとうございました。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

令和2年度学生生活調査 調査票(短期大学)

(大学生等の学習状況に関する調査を含む)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(33)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません。なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
最後まで全ての回答をお願いしますが、特に回答に躊躇するご事情がありましたらこの限りではありません。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

(※ 各設問に記載の「大学」は、本調査票では短期大学のことを指します。)

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 昼間部・夜間部の在籍状況	1. 昼間部	2. 夜間部	
(2) 性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
(3) 現在の学年	1. 1学年 2. 2学年 3. 3学年 ※留年や休学などは数えません。例：1年生を留年して現在2年目の場合は、「1学年」を選択してください。		
(4) 年齢	歳		
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系 2. 法・政・経・商・社系 3. 理・工系 4. 農系 <i>(「5.」「6.」は、短期大学の調査票では使用しません。)</i> 7. 看護・保健系 8. 教育・教員養成系 9. 福祉系 10. 家政・生活系 11. 芸術系 12. スポーツ系 13. その他 ※ 歯科衛生士、医療事務、薬局事務を目指す学科は、7. 看護系・保健系を選択してください。 幼児・保育教育学は、8. 教育・教員養成系を選択してください。 分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。		
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅 2. 学生寮(寄宿舎) 3. 下宿・アパート・その他 ※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。		
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県 2. 大阪府・京都府・兵庫県 3. その他の道、県		
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分	2. 11分～20分	3. 21分～30分 4. 31分～60分 5. 61分～90分 6. 91分～120分 7. 121分以上
(9) 現在の住所	(都・道・府・県)	(10) 入学前の住所	(都・道・府・県、又は海外)

Ⅱ. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学の授業 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学の授業の予習・復習、課題など	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 卒業論文・卒業研究	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 大学の授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 部活動・サークル活動	1	2	3	4	5	6	7	8
6. アルバイト・定職	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状態についてお聞きします。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)
 ※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。
 ※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(令和元年12月～令和2年11月)
 (令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項目	千	百	十	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 奨学金 の	日本学生支援機構	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
	日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
(c) アルバイト					000 円	
(d) 定職収入					000 円	
(e) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)					000 円	
年間収入合計(ア)					000 円	

(15) 年間支出額(令和元年12月～令和2年11月)
 (令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項目	千	百	十	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで修学可能ですか (最近1年間の経験から) (1つに○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない		
(17) 授業料減免制度を受けていますか (令和2年度前期分について) (1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった	5. 申請しなかった	6. 減免制度を知らない
(18) 日本学生支援機構の奨学金を受けていますか (最近1年間) (1つに○)	1. 奨学金を受けた 2. 申請したが不採用になった(どの奨学金も受けられなかった) 3. 希望したが申請しなかった 4. そもそも奨学金は必要なかった					
質問(18)で1.と回答した方にお聞きします (18-1) 受けた奨学金の種類について (あてはまるもの全てに○)		質問(18)で3.と回答した方にお聞きします (18-2) 「申請しなかった」理由について(主な理由1つに○)				
1. 「貸与」第一種奨学金(無利子) 2. 「貸与」第二種奨学金(有利子) 3. 「給付」奨学金(返済が不要)		1. 成績基準が合わなかった 2. 収入基準が合わなかった 3. 申請手続きが複雑なのでやめた 4. 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた 5. 日本学生支援機構以外の奨学金を受けることができたのでやめた 6. その他				
(19) 日本学生支援機構以外の奨学金を受けていますか (最近1年間) (1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた	4. 申請したが不採用になった (どの奨学金も受けられなかった)	5. 申請しなかった	

(20)アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した

↓
質問(20)のいずれかで2.～4.と回答した方にお聞きします

(20-1)アルバイトの従事職種(主なもの1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2)アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学する方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立した家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																			
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ア)主たる家計支持者</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>イ)その他の方</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> </div> <p>※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。</p>	億	千万	百万	十万	万						億	千万	百万	十万	万				
億	千万	百万	十万	万																
億	千万	百万	十万	万																
(22)主たる家計支持者について(1つに○)	1. 父 2. 母 3. あなた自身 4. 配偶者 5. その他																			
(23)主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	1. 44歳以下 2. 45～49歳 3. 50～54歳 4. 55～59歳 5. 60歳以上																			
(24)主たる家計支持者の職業について(1つに○)	1. 勤労者世帯 2. 個人営業世帯 3. 法人経営・自由業世帯																			
	4. 農林・水産業世帯 5. その他の世帯																			
	※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。																			

V. 大学での授業・学習について

(25) 今学期および前学期に、どの程度の科目数を履修登録しましたか。

また、それぞれについて、主にオンラインで実施の科目数(授業回の半分以上がオンライン実施のもの)を教えてください。

今学期の履修登録数 (内、オンラインで実施)	科目 (科目)	前学期の履修登録数 (内、オンラインで実施)	科目 (科目)
---------------------------	--------------	---------------------------	--------------

(26) 卒業に必要な単位数のうち、前学期までにどれぐらいを取得済みですか。

また、これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

(オンラインで受講者数がわからない場合は、おおよその予想で結構です)

前学期までに取得 済みの単位の比率	講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (50人未満)	演習・ゼミ	実験・実習
	割	割	割	割	割
約 %					

足して10割になるように、おおよその割合をお答えください。

(27) これまで受けた授業では、A. 次のようなことがどれぐらいありましたか、またB. その頻度は適当だと思いますか。

(それぞれの項目のA. B. について、あてはまる番号1つに○)

項 目	A. どれぐらいあったか				B. 頻度は適当か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	減らして ほしい	現状で よい	増やして ほしい
1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれる	1	2	3	4	1	2	3
2. 理解がしやすいように教え方が工夫されている	1	2	3	4	1	2	3
3. TA(ティーチングアシスタント)などによる補助的な指導がある	1	2	3	4	1	2	3
4. 小テストやレポートなどの中間課題が出される	1	2	3	4	1	2	3
5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	1	2	3	4	1	2	3
6. グループワークなど、学生が参加する機会がある	1	2	3	4	1	2	3
7. 主に英語でおこなわれる授業(語学は除く)	1	2	3	4	1	2	3

(28) あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	まったくあて はまらない	あまりあては まらない	ある程度 あてはまる	よく あてはまる
1. 先生に質問したり、勉強の仕方を相談している	1	2	3	4
2. なるべく良い成績をとるようにしている	1	2	3	4
3. グループワークやディスカッションに積極的に参加している	1	2	3	4
4. 必要な予習や復習をして授業にのぞんでいる	1	2	3	4

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)

(大学での評価方法にあわせて、①か②のいずれかに記入してください。)

※素点にて成績評価がなされている場合には、調査票記入要領P.6(29)を参照のうえ、記入してください。

	秀(S,A+)	優(A)	良(B)	可(C)		優(A)	良(B)	可(C)
①5段階 評価	割	割	割	割		割	割	割
②4段階 評価								

おおよその割合をお答えください

おおよその割合をお答えください

(30) あなたの大学(学部・学科)では成績評価にGPA制度が導入されていますか。差し支えなければあなたのGPAを記入してください。

GPA制度が (1つに○)	1. 導入されている	あなたのGPA .
	2. 導入されていない	

(31) 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、それは有用でしたか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	経験した				経験して いない
	有用でない	どちらとも いえない	有用だった	非常に有用 だった	
1. 授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス	1	2	3	4	5
2. 大学での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目	1	2	3	4	5
3. 就職や将来のキャリアをテーマとした科目	1	2	3	4	5
4. インターンシップ(5日以上のもの)	1	2	3	4	5
5. 短期の海外留学(4ヶ月～1年程度)	1	2	3	4	5

(32) 次の点で大学の授業は、A.どのくらい役に立っていると思いますか。またB.自分の実力はどの程度あると思いますか
(それぞれの項目のA.B.について、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	A. これまでの授業経験は				B. 自分の実力は			
	役に立って いない	←	→	役に立っている	不十分	←	→	十分
1. 専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 文献・資料・データを収集する力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 論理的に文章を書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 人にわかりやすく話す力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 外国語の力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 幅広い知識、もののみかた	1	2	3	4	1	2	3	4

(33) 卒業後に最も希望する進路は次のどれですか(A.B.それぞれについて、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	1. 民間企業に就職	2. 公務員になる	3. 教師、看護師、保育士 などの専門職につく	4. 自営など1～3以外 の形で就業	5. 進学する(専攻科、 大学編入など)	6. その他	7. 決めていない (いなかった)
A.入学時の希望	1	2	3	4	5	6	7
B.現在の希望	1	2	3	4	5	6	7



ご協力ありがとうございました。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

令和2年度学生生活調査 調査票(大学院)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(25)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません、なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
最後まで全ての回答をお願いします、特に回答に躊躇するご事情がありましたらこの限りではありません。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 修士課程・博士課程・専門職学位課程の在籍状況	1. 修士課程	2. 博士課程	3. 専門職学位課程	
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.1(1)を参照してください。				
(2) 性別	1. 男性	2. 女性	3. その他	
(3) 現在の学年	1. 1学年	2. 2学年	3. 3学年	4. 4学年
※留年や休学などは数えません。 ※一貫制博士課程の後期3年生の方は、博士課程の1年生と数えてください。				
(4)(a) 年齢	歳	(4)(b) 配偶者の有無	1. いる	2. いない
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系	2. 法・政・経・商・社系	3. 理・工系	4. 農系
	5. 薬系	6. 医・歯系	7. 看護・保健系	8. 教育・教員養成系
	9. 福祉系	10. 家政・生活系	11. 芸術系	12. スポーツ系
	13. その他	※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。		
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅	2. 学生寮(寄宿舎)	3. 下宿・アパート・その他	
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。				
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県	2. 大阪府・京都府・兵庫県	3. その他の道、県	
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分	2. 11分～20分	3. 21分～30分	4. 31分～60分
	5. 61分～90分	6. 91分～120分	7. 121分以上	
(9) 現在の住所	(都・道・府・県)	(10) 入学前の住所	(都・道・府・県、又は海外)	

Ⅱ. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学内での授業、研究、実習、実験 (オンライン授業の視聴時間を含む)	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学外での学習、研究	1	2	3	4	5	6	7	8
3. ティーチングアシスタント(TA)	1	2	3	4	5	6	7	8
4. リサーチアシスタント(RA)	1	2	3	4	5	6	7	8
5. アルバイト・定職(TA・RAを除く)	1	2	3	4	5	6	7	8
6. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状態についてお聞きます。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)

※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(令和元年12月～令和2年11月)

(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 日本学生支援機構の貸与奨学金 (返済が必要)						000 円
奨学金 日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)					000 円
	給付奨学金 (返済不要)					000 円
(c) 日本学術振興会の研究奨励金 〔博士課程のみ記入〕						000 円
(d) ティーチングアシスタント(TA)						000 円
(e) リサーチアシスタント(RA)						000 円
(f) アルバイト ((d)と(e)を除く)						000 円
(g) 定職収入						000 円
(h) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)						000 円
年間収入合計(ア)						000 円

(15) 年間支出額(令和元年12月～令和2年11月)

(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで 修学可能ですか (最近1年間の経験から) (1つに○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない
(17) 授業料減免制度を受け ていますか (令和2年度前期分について) (1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった
(18) 日本学生支援機構の奨 学金を受けていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 奨学金を受けた	2. 申請したが不採用になった(どの奨学金も受けられなかった)	3. 希望したが申請しなかった	4. そもそも奨学金は必要なかった

質問(18)で1. と回答した方にお聞きます

(18-1) 受けた奨学金の種類について
(あてはまるもの全てに○)

- 「貸与」第一種奨学金(無利子)
- 「貸与」第二種奨学金(有利子)

質問(18)で3. と回答した方にお聞きます

(18-2) 「申請しなかった」理由について(主な理由1つに○)

- 成績基準が合わなかった
- 収入基準が合わなかった
- 申請手続きが複雑なのでやめた
- 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた
- 日本学生支援機構以外の奨学金を受けられることができたのでやめた
- その他

(19) 日本学生支援機構以外 の奨学金を受けていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた	4. 申請したが不採用になった (どの奨学金も受けられなかった)	5. 申請しなかった
--------------------------------------------------	--------------	--------------	-----------------	-------------------------------------	------------

(20) アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した

↓ 質問(20)のいずれかで2.～4.と回答した方にお聞きます

(20-1) アルバイトの従事職種(主なもの1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2) アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21) あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア) 主たる家計支持者 と イ) その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。 ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学する方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立した家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア) 主たる家計支持者 と イ) その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																			
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ア) 主たる家計支持者</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>イ) その他の方</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> </div> <p>※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。</p>	億	千万	百万	十万	万						億	千万	百万	十万	万				
億	千万	百万	十万	万																
億	千万	百万	十万	万																
(22) 主たる家計支持者について(1つに○)	1. 父 2. 母 3. あなた自身 4. 配偶者 5. その他																			
(23) 主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	1. 44歳以下 2. 45～49歳 3. 50～54歳 4. 55～59歳 5. 60歳以上																			
(24) 主たる家計支持者の職業について(1つに○)	1. 勤労者世帯 2. 個人営業世帯 3. 法人経営・自由業世帯 4. 農林・水産業世帯 5. その他の世帯																			
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。																				

(25) あなたは定職を持っていますか(1つに○)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">1. 定職を持っている</div> 2. 定職を持っていない
---------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

↓ 質問(25)で1.と回答した方にお聞きます

(25-1) あなた自身の職業(1つに○)		
1. 勤労者世帯	2. 個人営業世帯	3. 法人経営・自由業世帯
4. 農林・水産業世帯	5. その他の世帯	
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。		



ご協力ありがとうございました。

調査票記入要領(大学・短期大学・大学院共通)

調査票は、本記入要領の内容をよく読んで、記入してください。

< はじめに ~学生のみなさまへ~ >

この調査は、全国の学生を対象として、学生生活の状況を把握し学生生活支援事業の充実を図るため、隔年で調査を実施しています。

この度は、新型コロナウイルスにより、みなさまの学生生活へも様々な影響があったこととお察します。大変な時期ではありますが、ご回答により、みなさまの学生生活の現状を社会に届けることができれば何よりです。

みなさま一人ひとりのご回答が本調査、国の学生支援事業を支えています。
ご回答にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、調査は無記名となっていますので、安心してご回答ください。

・この記入要領も見ながら、調査票を記入してください。

ご家庭の年間所得や、学生生活に必要な支出などについて、ご自身で把握できない項目については、ご家族にご確認のうえ、ご記入をお願いいたします。

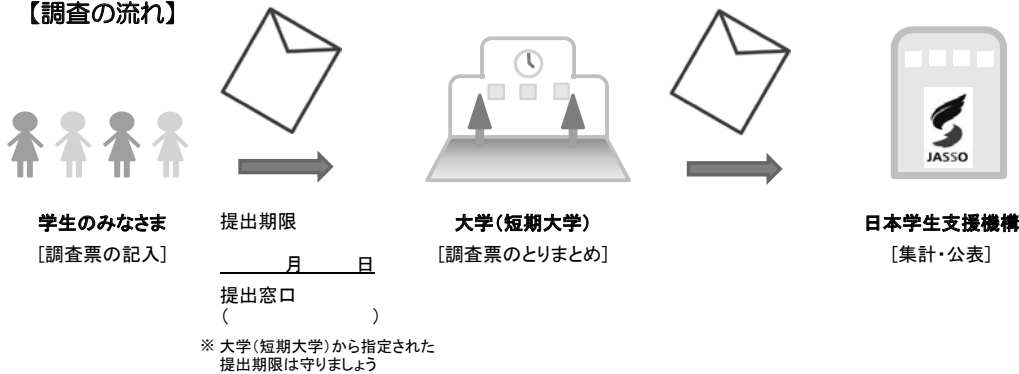
・記入が終わりましたら、調査票が入っていた封筒に戻し、学校窓口へご提出ください。

封(のりづけ等)をして、学校所定の窓口へご提出をお願いいたします。

回答した内容は、どんな風に
使われるの？

ご回答内容は統計的に処理し、集計した調査結果は、国の施策や学術的な研究や報道等の基礎資料として幅広く利用されます。また、本機構が学生支援の充実のために意義ある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。どちらの場合も、あなた個人の情報が特定されることはありません。

【調査の流れ】



○ 日本学生支援機構は、奨学金事業・留学生支援事業・学生生活支援事業を行う文部科学省所管の独立行政法人です。

本調査結果は、2022年3月ごろホームページにて公表を予定しております。
<https://www.jasso.go.jp>

I. あなたご自身について

(1) 修士課程・博士課程・専門職学位課程の在籍状況【大学院の方のみ】

1. 修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期2年(医・歯・薬・獣医を除く)
2. 博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期3年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
3. 専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

(5) 学科(専攻)の系統

1. 文・外国語・国際・文化系	文学、史学、哲学、教養学、外国語学、その他これに分類される学科および専攻
2. 法・政・経・商・社系	法学、政治学、経済学、商学、社会学、その他これに分類される学科および専攻
3. 理・工系	理学、工学、その他これに分類される学科および専攻
4. 農系	農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学、畜産学、水産学、その他これに分類される学科および専攻
5. 薬系 ※短大生の方は選択できません。	薬学、その他これに分類される学科および専攻
6. 医・歯系 ※短大生の方は選択できません。	医学、歯学の各学科および専攻
7. 看護・保健系	看護学、上記「薬系」「医・歯系」以外の保健学に分類される学科および専攻
8. 教育・教員養成系	教育学、教員養成を目的とする各学科および専攻
9. 福祉系	社会福祉学、介護福祉学、その他これに分類される学科および専攻
10. 家政・生活系	家政学、食物学、被服学、住居学、児童学、その他これに分類される学科および専攻
11. 芸術系	芸術、デザイン、音楽、その他これに分類される学科および専攻
12. スポーツ系	体育学、その他これに分類される学科および専攻
13. その他	1. ～12. の分類に当てはまらない学科および専攻

(6) 現在住んでいるところ

1. 自宅	家族と同居している場合(持家、借家、社宅等は問いません)。
2. 学生寮(寄宿舎)	大学直営に限らず、大学が借り上げている宿舎や公益法人等が経営している寄宿舎に居住している場合。
3. 下宿・アパート・その他	間借、学生マンション、親戚・知人宅を含み、修学の為に家族と別居している場合。

(7) 学校の所在地

通学しているキャンパスが複数ある場合は、主に通学しているキャンパスの所在地のある地域を選択してください。

(8) 片道の通学時間

通学しているキャンパスが複数ある場合は、主に通学しているキャンパスまでの通学時間を選択してください。

II. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について

「1. 大学の授業」には、オンライン授業の視聴時間やオンデマンド型授業(録画された動画等による授業)の視聴時間を含みます。

「4. 大学の授業以外の学習」(大学・短期大学)「2. 大学外での学習、研究」(大学院)には、ダブルスクール、英会話学校、通信講座や独学での学習などが該当します。

III. あなたご自身の経済状況について

(14) 年間収入額(令和元年12月～令和2年11月)(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

最近1年間の収入について、下記1・2のように算定し、その合計を記入してください。

<p>1. 毎月定例的な収入は、最近1か月の12倍</p> <p>2. 特定時期あるいは臨時的な収入は、最近1年間の実際の収入額</p> <p>例: 「(a) 家庭からの給付」の場合 毎月30,000円ずつ仕送りや小遣いをもらい、 その他に授業料(1年分700,000円)をあなたを経由せず、家庭が支払った場合 (30,000円×12ヶ月) + 700,000円 = 1,060,000円 → (a)に記入</p> <p>ただし、令和2年度に入学された方については、令和2年4月から11月までの収入額は上記1・2のように算定し、令和2年12月から令和3年3月までの収入額は、推定した額とします。その合計額を記入してください。</p>

※千円未満は四捨五入、収入額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

(14) 年間収入額(続き)

大学・短期大学用

大学院用

大学・短期大学用		大学院用		
(a) 家庭からの給付		(a) 家庭からの給付		あなたが家庭から給付を受けた額(仕送り等)および家庭があなたに代わって直接支払った額(授業料・家賃等)をすべて合計した金額を記入してください。 ※入学時の特別納付金(入学金、入学初年度のみ支払う納付金)のために受けた給付は、除いてください。 ※自宅通学者の場合は、家庭内でとる食事代などや家庭から一般的に支出されるもので、あなたの分として区分することがむずかしい費用にあてたものは除いてください。
(b) 奨学金	日本学生支援機構の貸与奨学金	日本学生支援機構の貸与奨学金		日本学生支援機構から奨学金の貸与を受けている方は、その年額を記入してください。 入学時特別増額は含めないでください。
	日本学生支援機構の給付奨学金			日本学生支援機構から給付される奨学金を受けている方は、その年額を記入してください。
	日本学生支援機構以外の貸与奨学金	日本学生支援機構以外の貸与奨学金		上記「日本学生支援機構の貸与奨学金」以外に、貸与制(返済が必要な)奨学金などを受けている方は、その年額を記入してください。 ※条件付で返還が免除される奨学金は「貸与制」ですので本欄に記入してください。
	日本学生支援機構以外の給付奨学金(右記①②)	日本学生支援機構以外の給付奨学金(右記①②)		上記「日本学生支援機構の給付奨学金」以外に、給付奨学金・奨励金を受けている方(下記①②)は、その年額を記入してください。 ①大学独自の学内奨学金など、大学から給付される奨学金を受けている方 ②地方公共団体、民間の奨学金事業団体などから給付奨学金・奨励金を受けている方、教育訓練給付制度による給付金を受けている方
		(c) 日本学術振興会の研究奨励金		大学院博士課程に在籍する方で、日本学術振興会から特別研究員として研究奨励金を受けている方は、その年額を記入してください。
		(d) ティーチングアシスタント(TA)		大学に雇用され、セミナーの指導、実験・実習の指導、試験の実施、学部学生の講義等を担当し、その対価として支給される給付金のことです。
		(e) リサーチアシスタント(RA)		大学教員の研究補助者として雇用されるもので、学生の研究補助事業業務に対する対価として支給される給付金のことです。
(c) アルバイト		(f) アルバイト		次の「定職収入」にあてはまらないもので、学生生活を送るうえで、学費または生活費を補うために働いて得た報酬のことです。税込額を記入してください。
(d) 定職収入		(g) 定職収入		「定職」とは、社会的に一定の職業を持ち、その収入によってあなたもしくは家族の生活の全部または大部分を継続的に賄っている場合です。あなたの定職収入額(税込)を記入してください。
(e) その他		(h) その他		あなたの貯蓄などを取り崩して支出にあてた額や、あなたの資産から生ずる利子収入・配当収入などのうちあなたの分として充当した額、あなたが奨学金以外で借入れをして今回調査期間中の支出に充当した額など、上記の項目に該当しない全ての収入を記入してください。 新型コロナウイルス関連の給付金等(大学独自の支援金、学生支援緊急給付金、特別定額給付金など)がある場合は、こちら(その他欄)に記入してください。

◎年間収入額の記入例(一人暮らしの大学院生の場合)

①家庭からの仕送り
月額15,000円×12ヶ月=180,000円

②家庭が支払った授業料等
年額550,000円

③家庭が支払った家賃
月額50,000円×12ヶ月=600,000円

①授業期間中のアルバイト代
月額31,600円×12ヶ月=379,200円

②夏休みのアルバイト代
年額93,000円

①379,200円+②93,000円=472,200円
↓
四捨五入 472,000円

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)		1	3	3	0	000円
(b) 日本学生支援機構の貸与奨学金 (返済が必要)					0	000円
奨学金 日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)		3	6	0	000円
	給付奨学金 (返済不要)				0	000円
(c) 日本学術振興会の研究奨励金 【博士課程のみ記入】					0	000円
(d) ティーチングアシスタント(TA)					0	000円
(e) リサーチアシスタント(RA)					0	000円
(f) アルバイト (d)と(e)を除く			4	7	2	000円
(g) 定職収入					0	000円
(h) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)					0	000円
年間収入合計(ア)	2	1	6	2	000	円

奨学金
月額30,000円
×12ヶ月
=360,000円

(15) 年間支出額(令和元年12月～令和2年11月)(令和2年度入学者のみ令和2年4月～令和3年3月)

最近1ヵ月の支出を基準として、「(14)年間収入額」で説明した算定方法に準じて、「毎月定例的な支出」及び「特定時期あるいは臨時的な支出」を算定し、年間の支出額ができるだけ正確なものとなるようにしてください。

※千円未満は四捨五入、支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

(A) 授業料	令和2年度分の年額を記入してください。ただし、授業料を減額または免除されている方は、減免後、実際に納入する額を記入してください。また、全額免除された方は「千」の欄に「0」を記入してください。(減免申請中の場合は、所定の授業料の額を記入してください)
(B) その他の学校納付金	授業料以外に学校に納めなければならない費用で、施設整備費、実験実習費、後援会費などのことです。令和2年度分の年額を記入してください。なお、入学時の特別納付金(入学金、入学初年度のみ支払う納付金)は除いてください。
(C) 修学費	上記(A)、(B)以外に学習のために、あなたが支出した経費です。 例)教科書・参考図書・実習材料・文具類の購入費・実習旅行費・実習を受けるために加入した保険料など。
(D) 課外活動費	サークル活動や自治会活動など、正課教育以外のために支出した経費です。サークル会費・合宿費・遠征費・用具購入費・自治会費など、毎年納入するものをまとめて支払った場合も含まれます。ただし、あなたの個人的な趣味、娯楽、レクリエーションなどの費用は(I)に記入してください。
(E) 通学費	定期券代などの通学に要する経費です。自転車、バイクや自動車などのガソリン代、維持費なども含まれます。
(F) 食費	自宅通学者…外食した時の経費だけを記入してください。 自宅外通学者…外食、自炊のための材料費、食事付きの下宿などで下宿に食費として支払う額の合計額を記入してください。ただし、間食代やし好品のなものは除いてください。
(G) 住居・光熱費	自宅通学者…0を記入してください。 自宅外通学者…家主などに支払う部屋代(管理費、共益費など含む)、光熱水費、暖房費などの合計額を記入してください。なお、食事付きの下宿で食費などと一括して支払っている場合でも、住居・光熱水費分を算出し、記入してください。
(H) 保健衛生費	診療代・薬代・理髪美容代・化粧品代・銭湯代などです。
(I) 娯楽・し好費	趣味、レクリエーションなどの費用および酒、タバコ、間食代などです。
(J) 通信費	携帯電話、固定電話代、インターネットにかかる代金などです。
(K) その他の日常費	被服、帰省のための交通費、社会保険料(年金等)など上記(A)～(J)に含まれない日常的な経費を、すべて記入してください。

◎年間支出額の記入例(一人暮らしの大学院生の場合)

①施設費

年額10,000円

②実験・実習費など

年額5,000円

①10,000円+②5,000円=15,000円

①家賃

月額50,000円×12ヶ月=600,000円

②水道・光熱費

月額5,000円×12ヶ月=60,000円

①600,000円+②60,000円=660,000円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください。

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)			5	3	6	000円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)				1	5	000円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)				3	6	000円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)					2	000円
(E) 通学費				3	6	000円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)			2	4	0	000円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)		6	6	0		000円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)				2	3	000円
(I) 娯楽・し好費			1	2	0	000円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)				8	4	000円
(K) その他の日常費			4	1	0	000円
(L) 貯金					0	000円
年間支出合計(イ)		2	1	6	2	000円

(18) 日本学生支援機構の奨学金を受けていますか(最近1年間)

奨学金を受けたと回答(選択肢1に○)した場合、設問(14)－(b)の該当箇所も記入したことを確認してください。

(19) 日本学生支援機構以外の奨学金を受けていますか(最近1年間)

奨学金を受けたと回答(選択肢1～3に○)した場合、設問(14)－(b)の該当箇所も記入したことを確認してください。

(20-1) アルバイトの従事職種

1. 塾講師・家庭教師など	塾・予備校講師、家庭教師、試験監督・採点など
2. 事務	一般事務、データ入力、パソコン入力事務、コールセンターなど
3. 販売	コンビニ・スーパー・デパート・量販店等での販売(レジ係を含む)、営業など
4. 飲食業	調理、接客、デリバリーなど
5. 販売・飲食業を除く軽労働	清掃、警備、包装、配布、新聞配達、製造、調査、イベントスタッフなど
6. 重労働・危険作業	土木工事、重量物運搬、引越スタッフ、倉庫整理、プレス作業、建築の現場作業、高所の屋外作業など
7. 特殊技能	通訳、翻訳、製図、プログラミング、インストラクターなど
8. その他	その他上記の職種にあてはまらない職種

IV. 家庭の状況について

(21) あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について

次の①～④所得の種類別に調べた額を合計した金額を記入してください。なお、金額の計算にあたってはすべて税込額で行ってください。

①事業所得	個人が経営する農業・漁業・製造業・卸売業・小売業・サービス業などから生ずる所得でその年中の総収入から事業経営に必要な経費を控除した額。(農業、小売業などで生産品または商品を自家消費した場合は、時価に換算した見積額を所得に加算してください。)
②給与所得	俸給、給料、賃金、歳費、賞与など労務または役務の対価として受けた総額。
③資産所得	利子所得、配当所得、不動産所得など、資産から生ずる所得の総額。
④その他の所得	恩給、年金、家庭の内職収入および世帯員以外の者からの経済的援助などの総額とし、退職金、財産売却、相続などのため、臨時的に得た収入および借入金には計算しないでください。 (新型コロナウイルス関連で臨時的に得た給付金や助成金等は、計算しないでください。)

(24) 主たる家計支持者の職業について

職業区分	代表例	基準	詳細例
1 勤労者世帯	会社員 公務員	民間の会社、商店、病院、学校、工場などや官公庁または官公立の病院、学校などに勤め、事務的、技術的または管理的な仕事、および肉体・技能労働に従事している者。 ただし、「3」の法人経営者に分類される者は除く。	総務・人事・企画・広報などの一般事務員、営業、外交員、SE、プログラマー、販売店員、調理人、配膳人、清掃員、勤務医、看護師、薬剤師、学校長、教員、研究者、塾講師、図書館司書、保健師、検察官、裁判官、警察官、消防士、自衛官、駅長、電車運転士、車掌、自動車運転手、船員、工場長、新聞記者、機械技術者、電気技術者、配達員、守衛、警備員など
2 個人営業世帯	商人 職人 個人経営者	独立して商品の製造、加工、販売またはサービスを提供する業主、および独立して個人組織で商業、工業、サービス業などを経営してその企画管理に従事する者。 ただし、「3」の法人経営者に分類される者は除く。	商店主、飲食店主、理髪店主、工場主、大工、植木職、アパート等不動産経営者、個人タクシー運転手、個人トラック運転手、行商など
3 法人経営・自由業世帯	会社役員 市町村長 議員	法人組織(株式会社・有限会社など)で、家族でない使用人5人以上を雇用する会社、団体などの役員、国・地方公共団体で役員に相当する者、および議会議員。 なお、「1」の勤労者に分類される者でも、程度の高い企画管理、行政事務または監督事務に従事する者は含める。	社長、会長、会社役員、取締役、監査役、理事、銀行頭取、相談役、政務官、事務次官、局長、裁判所長官、教育委員長、知事、副知事、区長、市町村長、副市長、国務大臣、副大臣、国会議員、地方公共団体議会議員など
	開業医 弁護士 芸術家 スポーツ選手	個人で自分の専門の技能や知識を内容とする仕事に従事する者。 ただし、「1」の勤労者に分類される者は除く。	開業医、弁護士、司法書士、公認会計士、税理士、助産師、マッサージ師、僧侶、神職、作家、漫画家、画家、作曲家、評論家、コンサルタント、芸能人(歌手、俳優など)、モデル、職業スポーツ家(野球選手、競輪選手、力士など)など
4 水産業・農林業世帯	農業・林業・海水産業従事者	独立して農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん・その他の動物の飼育、林木の育成・伐採・搬出、水産動植物採取・養殖などの仕事に従事している者。	農耕作業者、養蚕作業者、養畜作業者、伐木者、育林作業者、漁船要員、漁労作業者、海藻・貝採取作業者、水産養殖作業者など
5 その他の世帯	その他	「1」～「4」のいずれの職業区分にもあてはまらない者。	「1」～「4」のいずれの職業詳細例にもあてはまらない者。
	無職	職業のない者。	年金生活者、失業者、主婦など

V. 大学での授業・学習について 【大学・短期大学の方のみ（大学院の方はこの設問はありません）】

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)

素点によって成績評価がなされている場合には、

90点以上 = 秀 (S,A+)、90点未満～80点以上 = 優 (A)、80点未満～70点以上 = 良 (B)、70点未満～60点以上 = 可 (C)

とみなして、「①5段階評価」の欄に、おおよその割合を記入してください。

令和2年度 学生生活調査実施検討委員会委員（敬称略・50音順、◎委員長）

沖 清豪 早稲田大学 文学学術院 教授

◎加藤 泰建 埼玉大学 名誉教授（元 埼玉大学理事・副学長）

小林 雅之 桜美林大学 国際学術研究科 教授

濱中 義隆 国立教育政策研究所 高等教育研究部 副部長・総括研究官

望月 由起 日本大学 文理学部 教授

保田 時男 関西大学 社会学部 教授

令和2年度 学生生活調査結果

令和4年（2022年）3月 発行

独立行政法人 日本学生支援機構
学生生活部 学生支援企画課 学生支援調査係
〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1
TEL 03-5520-6169 FAX 03-5520-6048
URL <https://www.jasso.go.jp/>

